



「大学の構造改革の方針」にもとづき「研究拠点形成費補助金」を措置して生まれたもので、わが国の大学に世界最高の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図り、世界に通用する大学づくりを推進するものです。数学、物理学、生命科学、材料科学、工学、社会科学、人文科学、複合領域といったあらゆる分野にわたっており、2004年度まで3か年にわたり公募されました。東大で採択されたのは21拠点で、全国214拠点の約1割に当たります。

いずれも5年間のプロジェクトであり、2002年度に採択された11拠点はこの3月に拠点形成事業を終了しました。多くの拠点で、優れた研究成果が目に見える形で出ようになり、国際競争力のある拠点としての地位を確立しました。とりわけ、東大が推し進めようとしている分野横断的・融合的な視点に立った新しい研究領域において、新しいカリキュラム、コース、センターなどを立ち上げた拠点も少なくありません。東大の研究水準は、21世紀、国際プログラムの支援を受けてさら

に向上しています。自然科学関連の発表論文は質、量とも世界トップクラスです。また、文系では世界の著名な研究者が拠点に集ってシンポジウムやワークショップに参加するなど研究教育の幅が大きく広がるとともに、今までになかった形の出版成果も生まれました。

多くの拠点で、リトリート(海外)・専門英語教育など新しい教育方法の工夫により、幅広い視野を持つ人材の養成が行なわれています。また、各拠点に集まった多くの若手が研究者としての第一歩を踏み出す場を得ました。さらに、プログラム発足と同時に大学院生など若手研究者の短期海外派遣、諸外国の研究者の来訪、滞在がきわめて活発になりました。終了した拠点関係者の多くは、グローバル、国際プログラムの中で新たな拠点を形

成し、国際的な研究教育の幅がさらに広がっています。

